

うどのにしいせき 鵜殿西遺跡（第7次調査）

発掘調査が終了しました

令和4年10月28日をもって現地での発掘調査が終了しました。近隣の皆様と関係者の方には、ご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございました。

今回の発掘調査では、室町時代や江戸時代の溝が合計10条確認されました。このうち、幅5m近くある大規模な溝については、前回の発掘調査情報で紹介をさせていただきました。そこで、今回は別の溝について紹介します。

写真1・2の溝は、前回紹介した大規模な溝によって区画されていた屋敷地とは別の屋敷地を区画していたと考えられる溝です。規模は、幅が2.1m、深さが1.3mほどあります。溝からは室町時代の土器や陶器などが出土していることから、この時期に機能していたものと考えられます。

今後は、溝の掘削時期や性格をより明らかにするために、今までの調査で確認された出土遺物や他の溝との関係を整理し、検討していく予定です。



今回の調査でみつかった室町時代の区画溝です。溝は北から南へとのび、途中で西へ向きを変えていることがわかりました。

（写真1）



溝の断面形状はアルファベットの「V」に似ています（白点線）。断面にある穴は、溝の用途を検討するために土壌を採取した箇所です。今後、土壌の科学的な分析をすることによって、溝に生活排水を流していたのかなど、当時の機能状況が明らかになるかもしれません。

（写真2）